社説

富豪と社會事業

近年歐洲の諸國に於ては社會黨共産黨の論勢頗る盛なるの有様なるより我國の論客中にも或は其説に傚ひ富豪を攻撃して喧に社會黨風の感情を燃やさんと企つるものもあるが如くなれども我邦は日本現時の富豪を以て決して個人の利益を掠めて國家を弱むるものとなさゞるのみならず富豪の如き大なる柱礎ありて初めて國家を支へ得るものなるを信じ其數の益々多くして其財力の益々大ならんことを願るものなり例へば先回の支那征伐の如き時に方りて眞先に軍事公債の募集に應じ全國の資本家をして鑑の如くに感ぜしめたるものは何人の力なりやと云ふに論者が攻撃する所の富豪の卒先奮發に外ならざるを知らば立國の要素として富豪の欠く可らざる所以を悟るに足る可しなから鬣一般の人情より觀察すれば富者と貧者と互に相嫉視するは恰も民間の政客が在朝者を攻撃するが如く其形あを種々に異なれども無を以て有を攻むるは社會何れの局部にも免れざる現象にして已に足利時代には倫政と唱へて富豪の貨金を取り消さしめたるが如き又德川時代には貧民が徒黨して一揆打壊しの騒動を演じたるなど珍らしからず日本人民決して無限に不平怨悪の情を忍ぶものに非ざるを見る可し況んや近代の傾向は兎角貧富の間を衝突せしめんとする場合多きに於てをや今役貧富の爭は益々激しきものと覺悟せざる可からず勿論貧民の富豪に反撃は不理窟千萬にして一點の取る可きものあるに非ずと雖も兎に角に實際に其事實を見んとする上は富豪たるものは理非の辨別は偖ておき先づ民心を緩和するの法を講ずるあるべき得策なる可し然らば其緩和の法は如何と云ふに貧民を救助して其處を得せしむるが如きは最も妙なれども社會の貧民は限なくして富豪の財産には限り限あるものを以て限なきものを救はんとするは數の許さゞる所なれば其目的を達するには社會公共の事業に向つて金錢勞力を投ずるみを撮も捷徑なる可し此點に於ては貧富軋轢の辛苦を實驗したる歐米富豪の先例あり我富豪の學ぶ可き所なる可し今米國の富豪家が公共事業に財産を投じたる一斑を掲げんに左の如し

二千萬弗 スタンフォード大學へ
六百萬弗 教育費として
四百五十萬弗 シカゴ大學へ
三百十四萬弗 ジョンスホプキンス大學へ
三百萬弗 教育費として
三百萬弗 レハイ大學へ
二百萬弗 ポストン大學へ
一百五十萬弗 プリンストン大學へ
一百萬弗 ゲアメグ孝ルト大學へ
八十萬弗 バッサル婦人高等學校へ
六十萬弗 アデルベルト大學へ
四十五萬弗 ウオスレアン大學へ

スタンフォード氏
ビーボデー氏
ロックフエニア氏
ジョンスホプキンス氏
フエヤーウ孝ーザア氏
バクホード氏
アイザック、ミリケチ氏
グリーン氏
ゲアメグ孝ルト氏
バッサル氏
ストーン氏
セチー氏

右は唯其一斑を掲げたる者なれども之によりて米國の富豪が如何に社會事業を重ずるかを知るを得べし勿論以上の義捐必しも眞正の慈善心に出でざる者もある可しと雖も其心德の如何は問ふを須ひず既に慈善の形跡あらば即ち慈善に外ならずして富豪が貧民の不平憤慨を緩和する方便としては意に益ある可らず我邦は富豪家の財産の多々益々多からんことを望むと同時に公共事業に其應分を散じて社會の温かき人情を樂しむの必要なるを信ずるものなり

○力士の體象及び體格

時事新報社は兩國回向院の大相撲に金勝藤を賜與するの用意あると共に各力士の體象體格を紙上に掲載するの計畫ありて體象の分は既に去る日曜日の紙上に小錦出しく載せんとす若し回向院の相撲場に東西各力士が四十八手の秘術を盡して勝負を決するの光景を想像するに其力士の天賦の體格を知りて互に比較對照するときは自身の體格に比べ或は半生交際する人々の體格と其興味一層深かるべく更らに見物自身の優劣を比べるなど力士に關係せざる邊にも面白き話柄を添ふるみとある可し扨一社員は去る八日社員名和氏を伴ひ豫て體格試驗を願み置きたる岡本武次氏、體象寫眞を頼み置きたる山本謙七郎氏及び助手一名と共に早朝脱車を馳せて回向院側の力士稽古場に赴きたり稽古場には高く砂を盛りて水を打ち幣を立て傍の部屋には骨格逞しき力士筆坐横臥思ひのまゝに居住を崩したるは言はでも著るき稽古の疲勞を休むるなる可し一行は急き事を果さんと思ひたれば山本氏は其處此處を尋ね歩きて撮影に都合善き場所を撰び岡本氏は柱に釘を打ちてメートル尺を懸け名和氏は使を諸方に馳せて力士を迎ふる抓用意の間に成りて居合せたる小松山等は既に衣服を脱ぎ捨て場の中央に突立ちたり左れども同日は招魂祭に相撲あり時恰も開場に近きたれば力士は銘々同所に赴かざるを得ず假令二三の人を試驗し終るとも豫期の如く事を果すみを出來難ければ寧ろ同所に赴くみそ都合宜からめと年寄の注意至極尤もなれば一行は再び脱車を飛ばして午前十時渡りて水々の若葉滴るばかり忠魂を弔ふの士女の群れ立て賑はしかりしが此處には其殘りの分と體格の調査を終りて勝負の二日目一天晴